

令和 5 年度

1 自己評価及び外部評価結果

事業所名 : グループホーム・愛宕の丘

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0390200160		
法人名	有限会社 川崎タクシー		
事業所名	グループホーム・愛宕の丘		
所在地	〒027-0093 岩手県宮古市中里団地4-11		
自己評価作成日	令和5年7月1日	評価結果市町村受理日	令和5年10月19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>一人一人に寄り添った介護を行っている。残存機能を活かした介護を行っている。</p>
--

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は国道45号沿いの見晴らしの良い高台に位置する住宅団地の一面に立地し、開設から12年目となっている。事業所の運営推進会議には保育園長や駐在所員、町内会長、民生委員等の地域関係者が多く参加しており、地域との連携を意識した運営がなされている。かかりつけ医は看取りの取組みにも協力的であり、訪問看護ステーションからは毎週の来訪と24時間対応サービスを得ており良好な医療連携体制が構築されている。コロナ禍が長期化する中で、利用者の重度化も進行し、車椅子利用者も多くなっているため、外出支援では以前のように皆で遠方に出かけることが難しくなっているが、近隣の公園に良く出かけるなど、新たな取り組みにより利用者の満足度を引き出す努力を重ねている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和5年9月12日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

令和 5 年度

事業所名 : グループホーム・愛宕の丘

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念を共有し、利用者一人一人への対応を行っている。	事業所の理念は「ひとりの心を見つめるケア」であり、12年前の開設当初から継続されている。ホール内に掲示し、職員会議でも確認しながら職員への浸透が図られているが、職員間に十分に理解が進んでいるとは言い難い状況にもある。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ感染症対策の為、地域とのイベント等には参加していない。	コロナ禍にあつて地域との交流活動は取り組めない状況であったが、最近になって運営推進会議の委員でもある保育園長から保育園との交流機会の話題が出されるなどしており、地元の自治会を含めて交流活動再開の動きが出てきている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の方の理解を深めるために、コロナ感染症対策により自粛していた研修等を再度再開していく。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は令和5年度1回目は書面で行ったが、2回目は7/19通常通り地域の方々を招いて開催した。	運営推進会議は本年7月に久しぶりに集合開催となった。委員には駐在所員、自治会長、民生委員、保育園長などであり、バランスよい構成となっている。書面開催の際は資料送付のみだったが、集合開催となると、各委員から良く意見が出され、有意義な開催となっている。	委員構成は地域の多彩なメンバーとなっていて評価できるが、委員の一覧名簿がない点が残念であり、任期を含めた一覧表を作成されるよう期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	行政とも情報交換、個別相談を行い協力関係を築いている。	運営推進会議には市介護保険課職員と地域包括支援センター職員が参加し、相互の情報共有の機会となっているほか、日常的にも電話やメール等でやり取りしたり、直接出向いて相談することもある。なお、利用者には生活保護受給者もいるが、担当ケースワーカーが来訪しての調査がない状況が続いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人の『身体拘束委員会』が開催されており、職員には会議資料等で情報を周知している。	同社運営のグループホーム2カ所による「身体拘束適正化委員会」を3か月ごとに開催し、各ホームから委員や管理者、ケアマネが参加している。職員への研修会は年2回開催しており、4月からは集合開催としている。スピーチロックは時々見受けられることがあり、その場で管理者から職員を注意することもある。	

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム・愛宕の丘

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	前年度までは、コロナ対策のため研修は開催していませんが、前回同様声掛けから意識を持ち業務を行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	資格取得の際の勉強会や、認知症の方の利用できる制度の理解は一部ではあるができています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際、不明な点など、ご家族様からの質問対応を行っている。介護保険制度の改定の際には改定内容など理解周知に努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議でおこなっていたが、現在は十分ではない。	運営推進会議には利用者や家族も参加するが、運営にかかる意見等はあまり出されない。今年になって家族との面会を再開し、職員も家族からお話を伺う機会が増えている。また、家族に対しては毎月、利用者の状況を写真付きのお便りで知らせており好評を得ている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	申し送りや職員会議で出された意見を可能な限り反映させている。	職員からは毎朝夕の申し送り時や毎月の職員会議で意見が出されているが、ケアの内容の他、備品や修繕などに関することが多くなっている。コロナ禍以前には、実践者研修に参加した職員から他施設での好事例などが紹介されたこともあり、このような機会に職員の参加を進めていくこととしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	向上心等に関しては、自ら福祉全般の国家資格の取得を叶え、可能性や考え方を伝えている。		

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム・愛宕の丘

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	認知症に関する問題を一人一人に与え、どの程度認知症に対して理解をしているかを把握している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域包括支援センター主催の行事や同業の事業所等が集まる場所へ積極的に参加し交流している。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人様が困っていること、不安時に出される要望に耳を傾け安心できるよう支援に取り組んでいる。また、体調不良時等の場合でも安心して受診できるよう配慮している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	申し込みをされる際に困っていることや、主訴となるものや表現されていないものを意識して対応している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホームでの対応が可能なのかについて、最初の段階で見極めするようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	同じ人間という立場で対応することを意識している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	仕事を頂いているという意識は常に意識している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ以前は要望に応じていましたが、現在はまた自粛している。	今年はお盆に久しぶりに実家に出かけた利用者もあった。また、理美容に関しては、馴染みの美容院に出かける方が1人いる他は、2カ月に1度来所する訪問理容を利用しており新たな馴染みになっている。利用者個々の馴染みの場を聞き出す努力の中で、食事場所や知人の存在が判り、お連れする取組みも行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様のトラブルの想定や気の合う利用者同士の席の配置など意識している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	何かのきっかけでお会いした時には、声を掛けたり、時間がある時には話を聴くなどしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人様の言葉を発することが少ない方には、昔どの様な方だったのか、ご家族様からの情報をもとに、どのように考えているかイメージしながら対応している。	言葉で意思表示できる方が2、3人おり、通院の希望やおやつの購入、地元への外出希望などが話されており、なるべく意向に沿って対応している。意思表示できない方については、家族から好きな食べ物などを聞きだして、利用者に提供するなどの工夫をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	実態調査票やご家族からの情報収集をおこなう。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご本人様が体調悪そうなときには速やかに声掛けし、バイタル測定の結果、必要な場合は受診している。骨折などで安静を余儀なくされた方に関しても、痛みの有無などの確認を行い、出来る限り早く離床出来るよう支援している。		

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム・愛宕の丘

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員からの意見は出来る限り取り入れている。	ケアマネが介護計画を策定し、主治医や家族の意見を伺った上で、職員会議において検討し正式決定している。計画の見直しは概ね6か月ごとに行い、ケアマネがモニタリングを行い、職員会議において全職員が評価することとしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の申し送りや、変化を情報の分析にし計画している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人様のニーズに出来る限り対応できるように努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域イベントには可能な限り参加しようと考えている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族様からの情報や、ご本人様の昔からの行きつけの病院は引き続き通院できるようにしている。	6人の利用者が行きつけの市内のクリニックをかかりつけ医とし、月1回程度、職員が付き添って受診している。他の3人は市内の精神科病院と県立病院を主に受診している。看護業務は訪問看護ステーションから看護師が週1回来訪し、24時間の相談対応もあり安心感がある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	定期的に来訪する訪問看護師に状態を伝えてアドバイスをいただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院した際には、退院支援の看護師、相談員と連絡を密にとっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取り対応を行う際には、職員はもちろん訪問看護師とも情報共有し支援している。	利用開始時に重度化や見取りに関する説明を本人と家族に行い、了解を得ている。開設以来、多くの利用者が受診するクリニック医師の協力を得て、7人の看取りケアを行っている。直近2年間は看取りの実績がなく、職員でも未経験者が増えてきているので、改めて職員の研修機会を持つことも検討している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ある程度の対応は日頃から情報の周知をしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	施設内部での避難訓練を実施している。コロナ禍以降は地域間との連絡を休止しているが、今後は必要を感じている。	年2回、火災想定での避難訓練を実施しており、春の訓練では消防署員が立会い、4人の車椅子利用者もスムーズに避難できたと評価された。夜間の避難では、近くに住む職員がいち早く駆けつけることとしているが、訓練を通じて課題を共有することとしている。	夜間想定訓練は11月頃の薄暮時に実施することで暗さを実感し、可能な範囲で自治会からの参加も募り、具体的な課題を見出す機会とすることを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄時や入浴時などは、プライバシーを尊重し羞恥心を傷つけないよう意識して業務を行っている。	排泄時には他の利用者から見えないよう、プライバシーの確保に配慮している。入浴介助の際には、着替えの時にタオルで隠したり、機械浴の場合にもタオルで覆うなどの配慮をしている。失禁等の際には、周囲に判らないように処理し、優しく言葉掛けを行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人様の気持ちを聴いたり、聴けるように声掛けしている。		

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム・愛宕の丘

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	自己決定される利用者もおり、なるべく意思決定に任せている。他の利用者はゆっくりテレビを見たり新聞や広告などを見ながら過ごされている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自身で着替え等を選べる利用者、選べない利用者があるので、選んだ服を見せながら支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	嗜好品や嫌いな物の把握をおこなっている。片付けを利用者とおこなっている。	数年前から副食は3食とも外注となっており、職員はご飯とみそ汁を担当している。利用者の好みに対応するため、誕生会やイベントの際などには職員手作りのおやつ(蒸しパンやドーナツ)を提供して楽しんでいただいている。利用者は盛り付けや配膳、茶碗洗い等を交代で手伝ってくれている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べる、飲む量を記録して把握している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行っており、出来る利用者にはご自身で行っていただけるよう声掛けで促し、出来ない利用者には、その都度介助している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者様一人一人の排泄サインを把握したり、時間での誘導をおこなっている。	布パンツ使用で自立の方が3人で、他は3人がリハパン使用、3人が常時オムツ使用となっている。排泄チェック表も活用して、利用者への声掛けと誘導を適時に行っている。夜間のポータブルトイレの使用は無く、声掛けによりトイレでの排泄ができています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	利用者様の水分や食事での摂取量を把握し、必要に応じ下剤を調整している。		

令和 5 年度

事業所名 : グループホーム・愛宕の丘

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日等は、入浴チェック表を確認し決めている。場合によっては通院の状況、便の状況によって変更する場合もある。	週2回の入浴を基本としており、3人の利用者は機械浴としている。異性介助を拒否する方はいないが、入浴拒否気味の方には丁寧に声掛けするなどしている。職員と1対1になる時間であることから、会話も弾み、良いコミュニケーションの場となっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	眠れない時には飲み物の提供やテレビをホールで一緒に見る等の対応を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	施設で管理している。毎食前後必要に応じて利用者に手渡し服薬介助を行っている。飲み残しのないように確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の要望(食べたいもの等)に応えている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者様が行きつけの美容院に行きたいと訴えてくるときもありますが、コロナ以降は出来ていない。	コロナ禍が少し緩和されてきたものの、車椅子使用者が4人に増え、以前のように外出機会を持つのが難しくなっている。それでも、近所の公園(中学校跡地)には季節には桜が咲き、利用者の良い散歩コースとなっているほか、近くの道の駅や同系列のグループホームを訪ねて知り合いと交流したり、利用者を楽しんでもらう工夫をしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理に関しては、施設職員が行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	電話を掛ける利用者様には、制限はかけているが可能な連絡が出来るよう支援している。		

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム・愛宕の丘

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	気持ちよく過ごしていただける様に、湿度や清潔感が出るように環境を整えている。	2階建ての1階に居住スペースがあり、ホールを囲むように居室が配置されている。2階には会議室(多目的ホール)もあり、高い天井と吹き抜けから解放感ある施設となっている。空調はビルトインのエアコンとサーキュレーターにより適切に管理されている。利用者は3つのテーブルで夫々にくつろいで時間を過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者同士の組み合わせを意識しながら席を配置するよう努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自宅で生活されていた時から身近に置いて安心できていたものを持ち込んでいただきながら、生活していただいている。	各居室には筆筒とベッド、パネルヒーターが備え付けられており、利用者は、衣装ケースや家族写真等を持ち込んでいる。壁には、ホームでの行事写真や塗り絵の作品などが飾られ、居心地の良い部屋となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	展示物は写真のみにし、混乱を掛けないようにしている。		